



低炭素社会に向けた取組

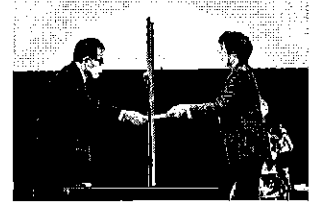
県民運動「ふじのくにCOOLチャレンジ」アプリで脱炭素ライフへ！



温暖化対策アプリ「クルポ」を活用し、地球温暖化防止のための県民運動「ふじのくにCOOLチャレンジ」を展開しています。

このアプリでは、環境に優しい取組に応じてポイントが貯まり、景品が当たる抽選に参加できます。現在、スーパー等でのリサイクルBOX利用、飲食店での食べきり、公共交通利用、次世代自動車の利用など県内約3,500ヵ所でポイントを貯めることができます。

令和2年12月、環境省主催「みんなで減らそう レジ袋チャレンジ」キャンペーンにおいて、普及啓発部門の最優秀賞を受賞しました。脱炭素ライフスタイルへの行動変容に向けて、ポイント獲得場所やメニューの充実をしていきます。



表彰式の様子

地球温暖化防止活動知事褒賞



県では、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人または団体に対し、その功績を称えるため、静岡県地球温暖化防止条例に基づき知事表彰を行っています。

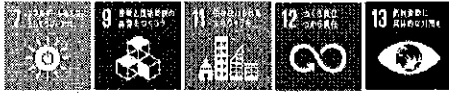
令和2年度は、温室効果ガス排出削減対策部門として、設備の導入により大幅な削減を達成した(株)リコー沼津事業所と、継続した省エネ活動を実施した(株)エクノスワタナベを表彰。また、地球温暖化防止普及・啓発部門として、生徒が主体的に環境行動を起こし、SNS等を通じて学校を挙げた情報発信を展開した学校法人誠心学園浜松開誠館中学校・高等学校と、地域の花壇の管理、節電・ごみ減量の啓発など、子どもや自治会等に対して温暖化防止の普及啓発を展開した北上えこくらぶを表彰しました。



表彰式の様子



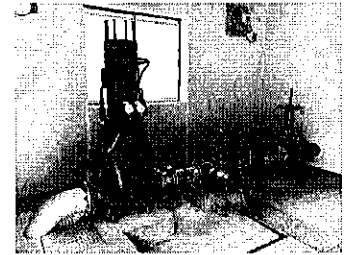
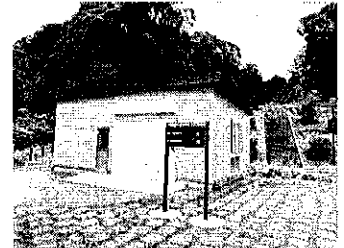
農業用水を活用してCO2 排出削減！



県では、農業用水を再生可能で貴重なエネルギー資源として位置づけ、農業用水を活用した小水力発電の導入を積極的に進めています。これまでに県営事業として4箇所の発電施設を整備し、農業用施設の維持管理コストの軽減やCO₂排出削減の貢献に努めているところです。

令和2年度には、県営中山間地域総合整備事業戸田饗の里地区（沼津市）において、中山間地ならではの落差を活かした最大出力19.9kwの小水力発電施設が新たに完成し、令和3年4月から運用を開始しています。

【戸田饗(もてなし)の里公園発電所】と設置した発電機



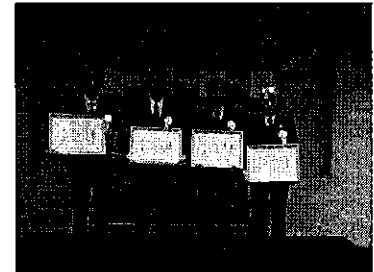
環境配慮措置が特に優れた建築物を表彰します！



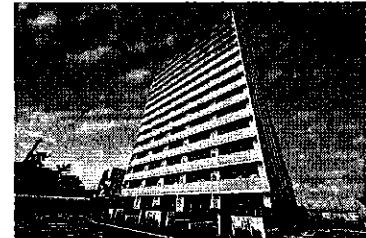
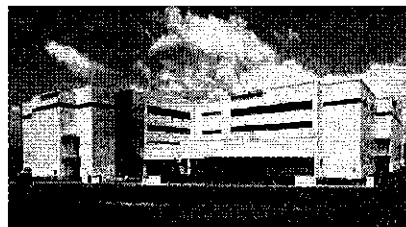
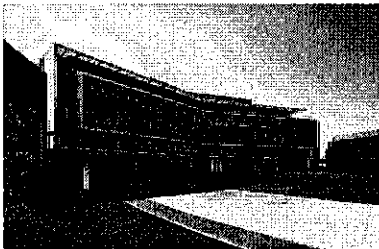
CASBEE 静岡による環境配慮計画書が提出された建築物のうち、環境配慮措置が特に優れている建築物の建築主及び設計者を表彰しています。表彰区分は、以下のとおりです。

- ・ 優秀賞：CASBEE ランクがSの表彰対象建築物の表彰対象者（上位の3件程度）
- ・ 奨励賞：環境配慮建築物優秀賞以外のS又はA（BEEの値が2.5以上）の表彰対象建築物の表彰対象者
- ・ ふじのくに賞：「重点項目への取り組み度」のうち、2項目以上で4.0点以上の得点を獲得した表彰対象建築物の表彰対象者

令和2年度は、優秀賞1件、奨励賞1件、ふじのくに賞2件を表彰しました。



表彰式の様子



受賞した建築物（左から順に優秀賞（ふじのくに賞と同時受賞）、奨励賞、ふじのくに賞）



海洋プラスチックごみ防止 6 R 県民運動の啓発を実施！

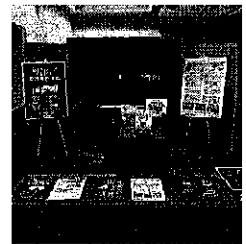


毎年800万トンが世界の海に流れ込むと推計されるなど海洋プラスチックごみは喫緊の課題であり、本県独自の「海洋プラスチックごみ防止『6 R 県民運動』」を令和元年度から行っています。

令和2年度は、コロナ禍の中、感染対策を行い富士市やNPOの協力を得て、田子の浦港付近の海岸で県主催の清掃イベントを10月31日に開催し、約100人が参加しました。

また、6 Rを実践した写真や宣言をSNS等で投稿するキャンペーンや、県立中央図書館などでの展示、県内交通機関等での広告など、多くの方の目に触れるよう啓発を行いました。

引き続き6 Rを実践してもらえるよう周知していきます。



県立中央図書館で6 Rの啓発展示



清掃イベントを田子の浦港付近の海岸で実施

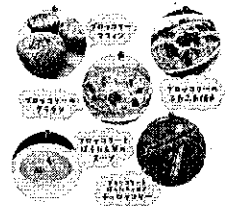
調理菓子専門学校やスーパーと協働で「食品ロス削減使いきり実践チャレンジ」を実施



県では、一般廃棄物の削減を目指して、県民が日常的に関わる「食」に着目し、家庭や外食での食品ロス削減の啓発に取り組んでいます。

令和2年度は、「食品ロス削減使いきり実践チャレンジ」事業を実施し、調理菓子専門学校と協力し、普段捨ててしまうブロッコリーの芯等を使ったレシピを制作しました。また、スーパーマーケットと連携し、制作したレシピや食材の保存方法を紹介したパンフレットを配布し、家庭での「使いきり」の実践を促すとともに、実践内容をアンケートで募集しました。

その結果、約350件の応募があり、「普段捨てていた部分を使いきれた」「食品ロスについて考えるきっかけとなった」等の感想をいただきました。



パンフレットと専門学校が作成した使いきりレシピ

物の有効活用やごみの減量を考える「フリーマーケット」を開催しました！



函南町では家庭に眠っている不用品の再利用とごみの減量、3R推進のためフリーマーケットを開催しました。新型コロナウイルス感染症対策をしながら衣類や雑貨、おもちゃなど33区画の出店、液肥の無料配布等を行いました。また、「STOP!!温暖化」と題して地球温暖化の説明やクルポの推進を、「Let's Try ごみ減量」と題して3Rや雑がみの展示、生ごみ処理機の展示を行い、ごみの減量、食品ロス削減をPRし来場者は楽しみながら身近にできるエコについて学びました。



フリーマーケット、展示場の様子



富士山麓における自主的な撤去活動に助成しています



富士山の世界文化遺産登録を機に富士山の環境保全への関心が高まり、非営利団体等が不法投棄廃棄物の回収・撤去に取り組んでいます。不法投棄廃棄物の撤去は原因者による撤去が原則ですが、世界文化遺産に登録された富士山の保全を図るため、県はこうした団体による自主的な活動を促して、富士山麓に残存する不法投棄廃棄物の回収・撤去を進めています。

平成26年度から、原因者が特定されずに不法投棄され、放置されたままの産業廃棄物の回収、撤去を行う団体への助成をし、令和2年度までに累計で247.78トンの産業廃棄物が回収・撤去されています。

回収された産業廃棄物と撤去の様子



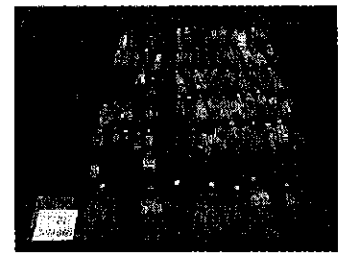
藤枝市の河川におけるごみの実態調査を実施しました！



近年、海を漂流するごみの多くは、河川等を通じて排出される陸域由来のごみと言われています。そこで、藤枝市では市内4河川におけるごみの実態把握のため、調査を行いました。

結果は、市街地から遠く人目につきにくい地点や水が滞留する地点で、投棄されたと思しきごみが多く見られました。内訳は容器包装ごみやプラスチックの割合が高かったです。一方で、河川水中のマイクロプラスチックについては、平均浮遊量が0.42個/m³と目安の1個/m³を下回っていました。

調査結果はごみの排出削減に向けた啓発資料や効果的な抑制対策の検討に活用していきます。



河川から回収されたペットボトル

「ヤっカイ者のモウソウ竹」が「ウまい静岡メンマ」に！



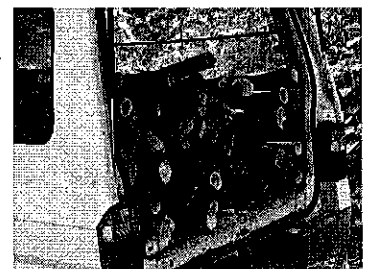
静岡土木事務所では土砂災害に強い樹林帯（グリーンベルト）を作るため、地域住民や大学生と協働で放置竹林対策に取り組んできましたが、立ち上げ時の問題意識を持った世代が引退し、新たな人材確保や活動の魅力の向上が課題となっていました。

そこで、新しい取組としてこれまで処分していた若竹を活用し、メンマづくりを行い、新聞やテレビ、SNS等により積極的にPRを行ったところ、食品会社とつながることができました。

その結果、放置竹林は地域の有益な資源となり、また、商品自体が広報ツールとなって新たな活動参加者が得られるなど、産官学民一体となることで継続的で循環的な取組を行うことができました。



集合写真



収穫した孟宗竹